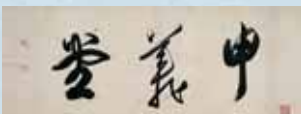


申義堂とは

江戸時代の文化年間 (1804-1818) に、高砂町北本町に創立された学問所です。姫路藩家老河合寸翁 (1767-1841) の命により、当時、高砂の大年寄であった岸本吉兵衛が土地・建物を提供した、町民による町民のための教育機関でした。

高砂の庶民が学んだ郷学として、教育の原点ともいえる施設です。



河合寸翁筆申義堂額

申義堂の教育

申義堂では、こどもたちが、中国の古典などを教材に、まちの大人たちに教わっていました。

毎日、早朝から正午まで、元旦五節句と毎月5・15・25日の休み以外は、授業がおこなわれていました。



教育風景イラスト



天保年間 (1830 年代) の申義堂出席簿
(岸本文書)

申義堂ゆかりの人物

申義堂教授として、地元高砂の菅野松塙 (1812-1843) や三浦松石 (1799-1858)、美濃部秀芳 (1841-1904) らが、こどもたちに教えていました。

美濃部秀芳は、町医者で、憲法学者の美濃部達吉 (1873-1948) の実父です。



美濃部秀芳肖像

案内図



交通アクセス

<お車で…>

国道 2 号加古川バイパス加古川西ランプより
県道 43 号高砂北条線を南下

<電車で…>

山陽電鉄本線高砂駅下車南へ徒歩 10 分

利用案内

公開日：土曜日・日曜日・祝日

ただし、12 月 29 日～1 月 3 日は除く

公開時間：午前 10 時から午後 4 時まで

入館料：無料

申義堂 (しんぎどう)

〒676-0051 兵庫県高砂市高砂町横町 1074-5

Tel・Fax 079-443-2388

【問い合わせ先】

高砂市教育委員会 生涯学習課 文化財係

Tel・Fax 079-448-8255



高砂市指定文化財

しんぎどう
申義堂





座 敷



座 敷



南・東側面

申義堂の建築

構造は、木造平屋建て、3 間 × 3. 5 間、寄棟屋根、本瓦葺きです。

間取りは 20 畳の座敷 1 室に、奥の間に 3 間、正面縁側の、簡素な構成です。正面玄関屋根に、飾瓦露盤が葺かれています。

加古川市から移築した部材をできるだけ再利用し、江戸時代の建築様式にあわせて、復元しています。平成 23 (2011) 年 12 月に、高砂市指定文化財に指定されました。

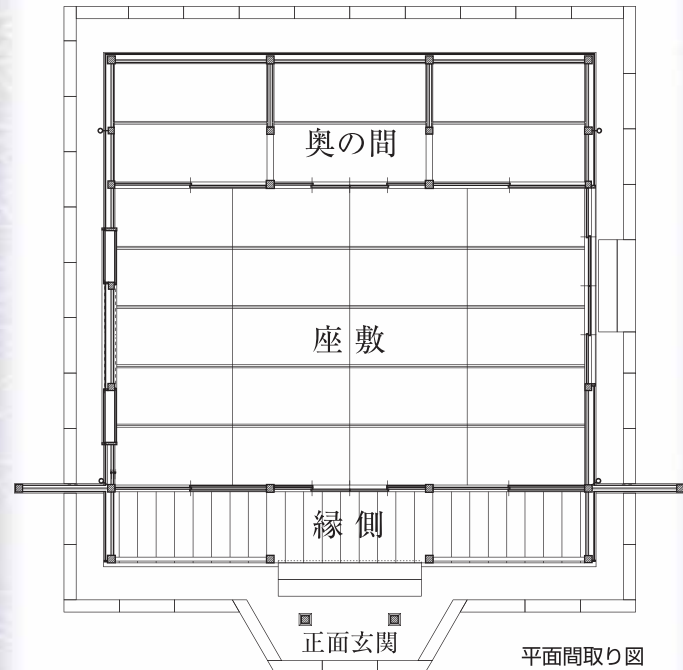
面 積 敷地面積：501 m² 建築面積：65 m²
 年 代 江戸時代 文化年間
 寸 法 南北 7.8m、東西 8.2m、棟高 6.2m



奥の間



縁 側



平面間取り図



正面玄関

申義堂の復元

建物は、明治時代の廃校後、加古川市に移されていましたが、平成 2 年、高砂市・加古川市両文化財審議委員会の調査で確認され、いったん高砂市へ解体移設しました。



移築前 (加古川市東神吉町西井ノ口)

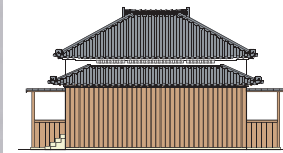
平成 11 年に(株)カネカから受けた寄付金を原資に、復元計画を策定し、その後、平成 22 年度から復元工事に着手し、平成 24 (2012) 年 1 月、高砂町横町に、江戸時代当初の姿に復元しました。



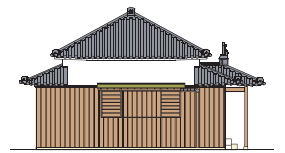
正面立面図



右立面図



背面立面図



左立面図

復元設計図



復元した正面玄関の飾瓦六角露盤